

「読者の広場」

— 西暦 3001 年の編集日誌 —

電力時事通信記者 鈴木 重彦

西暦 3001 年 0 月 × 日

きょうからこの日誌を西暦 2000 年前後の日本語を使って書くことにする。この時代の日本語は 500 年頃の中国語の文字とヘブライ語の文字と、800 年頃に独自に作り出された文字が入り交じっており、表記が難しい。その上、2000 年頃の英語の語彙も多数入り込んでいる。ただ、母音は a、i、u、e、o の 5 種類しかなかったらしく、2200 年頃に 8 種類に増えているのに比べ、英語からの流入語語彙も 5 種類の母音に置き換えて発音していたようである。

さて、きょうは安息日である。情報は自宅の葉緑素液晶 3 次元画面には一切入ってこない。日の出時に起床。庭に出て、太陽と宇宙に感謝する祝詞を上げる。緑黄色野菜をたっぷり入れた牛乳シチューで朝食を済ませる。午後、ムハンマド・クーミン・アルハゲリンスキー老師とアンナ・マリア・ユミコ嬢が方違いのため牛車で来訪。日没まで投扇興をする。老師は今年 260 歳になるそうだが、宗教上の理由により尊厳死を選択しない。アンナ嬢は先天的に目が不自由であり、ナノ細胞水素燃料電池を内蔵したニューロ機能視覚再現眼鏡を着用している。夜、2 人は客室で斎戒沐浴、休息してもらい、二酸化炭素紙と炭素筆と炭化水素墨を使って華厳経十地品を写経する。月と諸惑星、恒星、星雲に祝詞を上げ、就寝。

○月 X 日

モシューシュー@ヤマダ氏からの電文によると、土星タイタン開発有限会社のヨーゼフ・K. ソン代表が土星の表面に分布する液化メタンを回収し、地球、火星に輸送、販売する計画を立てており、地球エネルギー公団に打診している、とのこと。公団としては、地球エネルギー 36 人委員会に提案する意向のようだが、以下のような反対意見が出される公算が大きい。いわく、土星が経済振興策としてそのような計画を立てているのだろうが、有限資源を高額の情報容量貨幣と引き換えに購入するのは土星の経済的自立を妨げる。いわく、液化メタンを水素と炭素に分離するプラントは地球では 2300 年以降製造実績がない。いわく、土星は 2525 年地球連邦政府成立の際に反対して移住した

一派の子孫であり、そのような国への過剰な経済的援助はいかなものか。等々。

○月 X 日

木星の衛星ガニメデで改良型核融合炉が運転を開始した。エウロバ、ガニメデ、カリストとも水資源が豊富で、熱分解により水素と酸素を製造でき、農業生産、工業生産を適正規模にすることができる。イオの地熱熱電発電も硫黄回収設備も順調に稼働している。イオで硫黄が採取できるわけである。

○月 X 日

黒鹿毛の馬「スルスミホマレ」号に乗り、東京特別市に行く。入間川の橋を渡ったところで、関東自治政府の治安維持官に身分証明カードを呈示し、滞在期限 12 時間という条件で入る。SPM 防止マスクをかぶり、中山道に行く。住民の多くは密集した質素な住宅に居を構え、質素な服装を着用しており、多くは裸足である。1900-2100 年の集中豪雨的な大気汚染、およびそれに対する地球生命の報復とも言うべき 2084 年富士山大噴火の痕跡がそこかしこに残っている。髪の毛を金色に染め、口を半開きにした子供たちが寄ってきて、チョコレートをくれ、携帯電話をくれ、と叫ぶ。彼らは 1300 年頃の悪党のように人を殺し、物を盗む。2800 年までに絶滅したはずの敵意、殺意、損得勘定などがこの地域には残っている。

夢の島廃棄物アルコール化工場が順調に稼働していることを確認し、入間川を渡り、山吹の里に帰る。

○月 X 日

安息日。語り部の木に問い掛け、1900-2000 年の古文書を検索する。これほど多数の人間や生物が殺害された時代は珍しい。原子爆弾を開発したオープンハイマーという科学者は死に臨んで次の言葉を遺している。

「私は科学の外の領域に真理が存在することを忘れていた」。